

# 予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：労働費 項：職業訓練費 目：職業訓練校費

## 事業名 国際たくみアカデミー海外連携推進事業費

この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

商工労働部労働雇用課人材育成係 電話番号：058-272-1111（内 3126）

E-mail： c11367@pref.gifu.lg.jp

### 1 事業費 130 千円（前年度予算額： 130 千円）

#### <財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財産 収入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	130	65	0	0	0	0	0	0	65
要求額	130	65	0	0	0	0	0	0	65
決定額	130	65	0	0	0	0	0	0	65

### 2 要求内容

#### (1) 要求の趣旨（現状と課題）

次世代住宅の普及にあたっては、高気密・高断熱の住宅と太陽光発電設備等の設備を活かした省エネ性能の向上が必要となる。

国際たくみアカデミーでは、平成26年度から次世代住宅先進国であるドイツの職業学校が実施しているカリキュラムの調査を開始し、平成27年度から「リヒャルトフェーレンバッハ職業学校（RFG）」と連携協定の覚書を締結し、平成30年度には次世代住宅施工カリキュラムを導入した。

覚書は平成30年6月に更新し、カリキュラム導入後の課題等についてのアドバイスを受けられる体制を整えた。

#### (2) 事業内容

平成30年度に導入した次世代住宅施工カリキュラムを引き続き実施する中で生じた課題に対し、連携先のRFGにアドバイスを受けながら充実させていく。

### (3) 県負担・補助率の考え方

職業転換訓練費交付金及び離職者等職業訓練費交付金充当(厚生労働省)

## 3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
役員費	30	電話代、郵送代 10,000円×3か月(回) = 30,000円
委託料	100	現地連携調整委託 100,000円×1か月(回) = 100,000円
合計	130	

## 決定額の考え方

## 4 参考事項

### (1) 各種計画での位置づけ

岐阜県成長・雇用戦略

成長分野(航空宇宙、医療福祉機器、食料品、医薬品、次世代エネルギー)

・次世代エネルギー分野のプロジェクト

→岐阜県ゼロエネルギーハウスプロジェクトの推進

### (2) 後年度の財政負担

なし

# 事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業  
 継続要求事業

## 1 事業の目標と成果

### （事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか  
令和3年度は、最終年となるが、引き続き、平成30年度に確立したカリキュラムを実施する。その中で生じた課題で対応困難な案件が発生した場合、連携先の RFG にアドバイスを受けながら充実させていく。

### （目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	指標の推移		現在値	目標	達成率
		(H29)	(H30)	(前々年度末時点)		
次世代住宅に関する訓練修了者数	0 (H25)	55 (H29)	127 (H30)	215 (R01)	380 (R03)	57%

### ○指標を設定することができない場合の理由

--

### （前年度の取組）

・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）  
平成30年度から開始した次世代住宅施工カリキュラムが、日本版（岐阜県版）になじむようにプログラムの調整等を行っている。

### （前年度の成果）

・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果  
課題が残る在職者に浸透させる次世代住宅施工カリキュラム・プログラムを修正し、4コースを実施した。

## 2 事業の評価と課題

### (事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い、△：必要性が低い</li> </ul>	
(評価) ○	岐阜県版次世代住宅の普及に必要な施工技術者の育成、供給のために必要である。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおり又はそれ以上の効果が得られている、△：まだ期待どおりの成果が得られていない</li> </ul>	
(評価) ○	RFGとの連携協定に基づき、RFGより必要なカリキュラム等入手し、指導員研修の結果に基づき、次世代住宅施工技術者育成に必要なカリキュラムと指導方法について方向性を確定することができている。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている、△：向上の余地がある</li> </ul>	
(評価) ○	次世代住宅施工技術者育成のためのカリキュラムを導入した。今後、カリキュラムを実施する中で生じた課題について、連携先のRFGにアドバイスを受けながら充実させていく

### (今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業が直面する課題や改善が必要な事項</li> </ul>
---

### (次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 平成30年度に確立したカリキュラムを実施し、課題が生じた場合に連携先のRFGにアドバイスを受けながら充実させていく。</li> </ul>
---

### (他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	
組み合わせる理由や期待する効果 など	